國史繪話

銅像物語

佐々木千之作　吉本雅生畫

國史繪話

銅像物語

佐々木千之作
吉本雅生畫

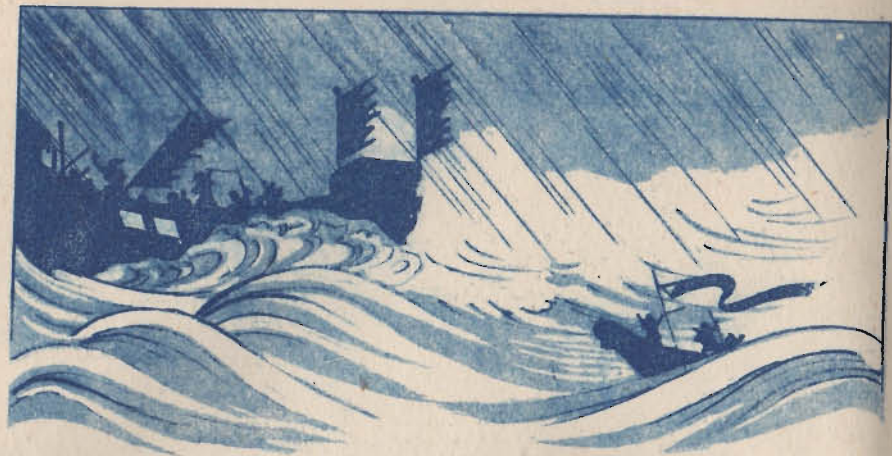
東京
時代社

この本のこゝろ

今の日本は東亞の盟主(めいしゆ)として、輝かしい建設に、いつしよけんめいです。この大切な時に、私たちも、すめらみくにの少國民としてつとめなければなりません。

それには日本の國史を先づ知らなければなりません。この『銅像物語』には、八つのお話が入つてゐますが、どれも私たちが知つておかなければならぬ大切なことばかりです。

銅像を見て、これは誰それの銅像だといふだけでなく、世界に輝くわが國史について考へていただきたいと思つて、この本を書きました。

銅像物語 目次

龜山天皇

蒙古の勢力

わが平安時代の末、支那では、今の滿洲地方に遼・金などの强國が起りましたが、そこへ蒙古がすばらしい勢ひで立ち上つたのです。蒙古族は初めは宋といふ國の北に起つたのでしたが、鎌倉時代の初めに成吉思汗が振ひ立つと、次第に勢ひを增して、四方を攻め破り、つひには遼といふ國を併せ從へてゐた金といふ國をも滅して、支那の北の半分を領地とし、さらに雲南・西藏・安南をも平定し、西は遠く歐洲まで侵入して、モスコー・ハンガリー・ポーランドなどをふみにじるやうになりました。

第九十代龜山天皇の御代に、忽必烈が即位すると、南は

宋をしたがへ、都を今の北京にさだめ、東は高麗を降して朝鮮半島を從へその勢ひに乘つて、わが日本をも服從させようと思ひました。そこで、文永五年高麗王をとほして蒙古は國書をわが國へ送つてよこしました。しかし、それには無禮千萬なことが書いてあるといふので、朝廷におかれては返事をしないことに決められたのです。

時宗の豪勇　翌年になると、蒙古の使者がまたしてもやつて來たので、朝廷では、何と答へるかを鎌倉幕府に命じて相談をおさせになりました。時の執權北條時宗は、まだ年も若かつたのですが、生れつき膽ッ玉の太い人でしたから、そんなおどし文句にはびくともせず、きつぱりとはねつけ無禮ではないかと責めつけて、使者を追ひかへしてしまひました。そして鎭西の武士に命じて、益〻國の防備を堅くさせました。

文永の役　蒙古はやがて國號を元と定め、幾度も使者をよこして、日本を服從させようとしましたが、いつも返事を受けて歸ることが出來ませんでした。そこで元の王は大へん怒つて、第九十一代後宇多天皇の文永十一年十月、大軍を率ゐて攻めよせて來たのです。忻都・洪茶丘といふ人たちが大將格で、戰艦およそ九百餘艘、まづ對馬・壹岐を襲撃して虐殺をさんざんにし、さらに進んで筑前に迫りました。

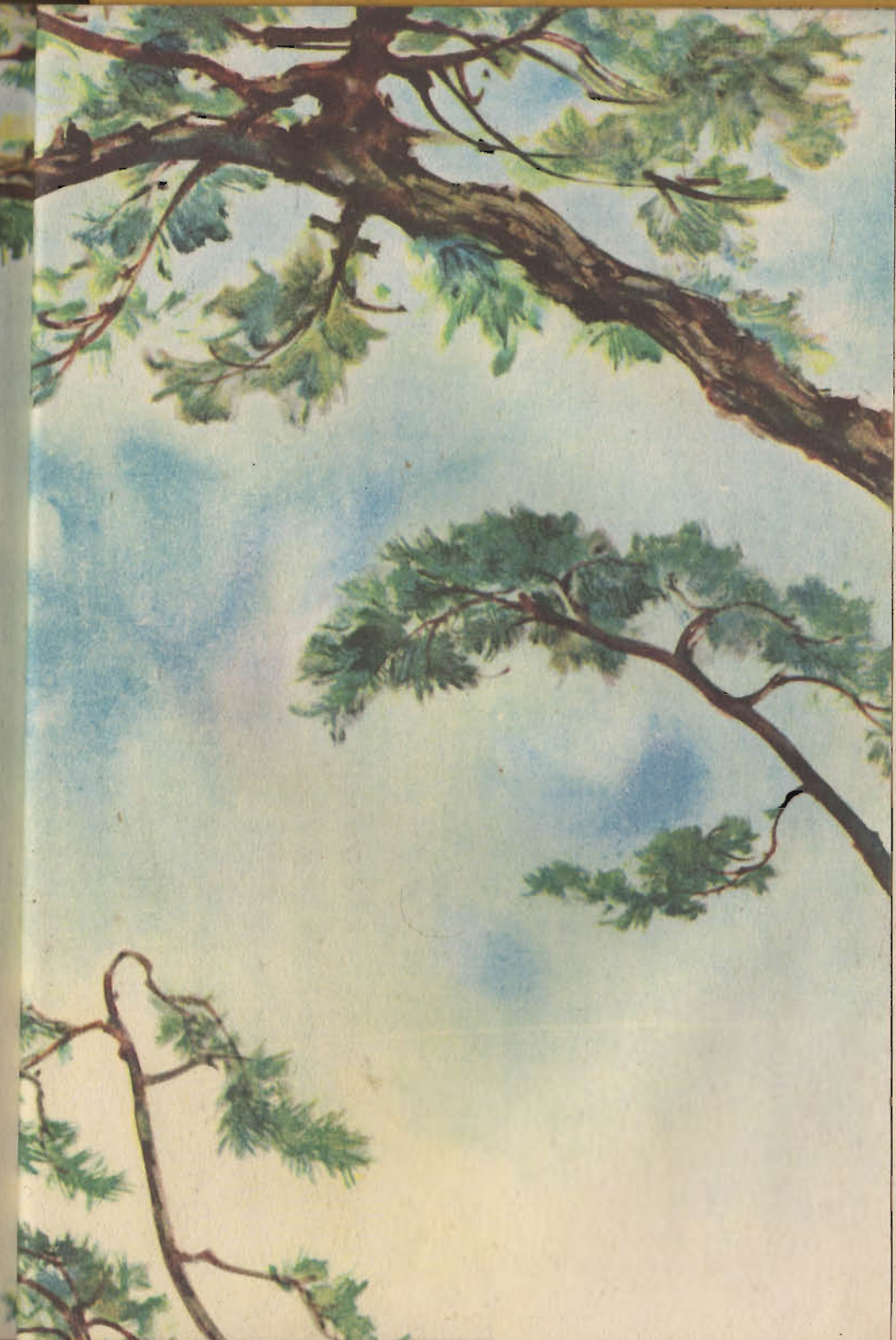
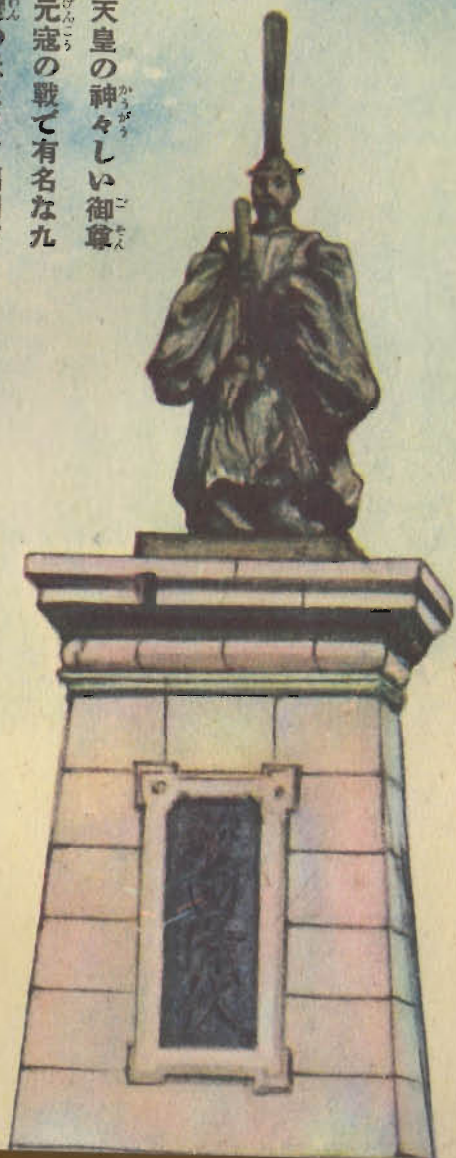
わが方では、少貳・菊池・大友の諸軍が博多灣にこれを迎へて戰ひましたが、殘念ながら武器

や戰術の點で不利のことが多かつたのです。しかも、力戰奮闘してやうやく擊退しました。折しも暴風がにはかに起つて、蒙古の艦隊は大損害をうけ、やつと逃げ歸つたといふことです。

弘安の役　やがて元は宋を滅ぼして、全支那を統一してしまひました。またしても、わが日本を一氣に從へようとし、弘安四年（紀元一九四一年）東路・江南の兩軍を仕立てゝ攻めて來ました。東路軍四萬の大將は忻都と洪茶丘らです。まづ博多に攻め寄せましたが、河野通有・菊池武房・竹崎季長らが防壘によつて防ぎ戰ひ、敵兵を上陸させないやうにしたばかりでなく、暗夜に乘じて小舟を飛ばし、しきりに敵艦を襲撃して元の軍勢を驚かせました。

范文虎の率ゐる江南軍の十餘萬はおくれて、七月にやつと到着、東路軍と一緒になつてわが軍に迫らうとしました。晦日の夜中から猛烈な神風が吹きまくり、海は怒り大波が空に捲きあがり、何千といふ元の大戰艦が木の葉のやうに散りみだれ、顚覆して沈むもの數へきれず、さしもの大軍も全滅に近く、わづかに肥前の鷹の島に敗戰した兵士たちがあつたが、それらもみな我が軍のために捕へられ、斬られてしまひました。

國難と擧國一致　この敗戰には、歐亞の天地をなびき伏せて向ふところ敵なしと威張つてゐた元も、さすがにこり〳〵してか、つひにわが日本を、征服出來ぬ國の一つに入れて、一指さへ日本の國土を侵すことが出來なかつたのです。これといふのも、泰時、時賴がよい政治をし

龜山天皇の神々しい御尊
像は、元寇の戰で有名な九
州博多灣のほとり、福岡市
の東公園に聳え立たせられ
て居ります。御尊像を仰ぐ
者ひとしく帝の高き御徳を
しのび奉り、また淸らかな
松風の聲に、往時の烈しい
神風を想ひ起すことでせう。

て人々の心をなつけ、その上貯蓄勤儉に力をそゝいで、財政を豊かにさせたので、一度この國難に逢つた時、忠勇な鎌倉武士はその本領をあらはし、莫大な軍用金を支へつゞけることが出來たからであります。この勝利は、擧國一致の燃えるやうな愛國のまごころがあつたからです。

敵國降伏の御宸筆　かしこくも龜山天皇は上皇の御身であらせられ、弘安の元寇の折に親しく石清水八幡宮へ行幸遊ばされ、また伊勢の皇大神宮へ勅使をおつかはしになられました。

上皇の御製に

すべらぎの神の御言をうけきつるいやつぎ〳〵に世を思ふかな

世のために身をばをしまぬ心ともあらぶる神はてらしみるらむ

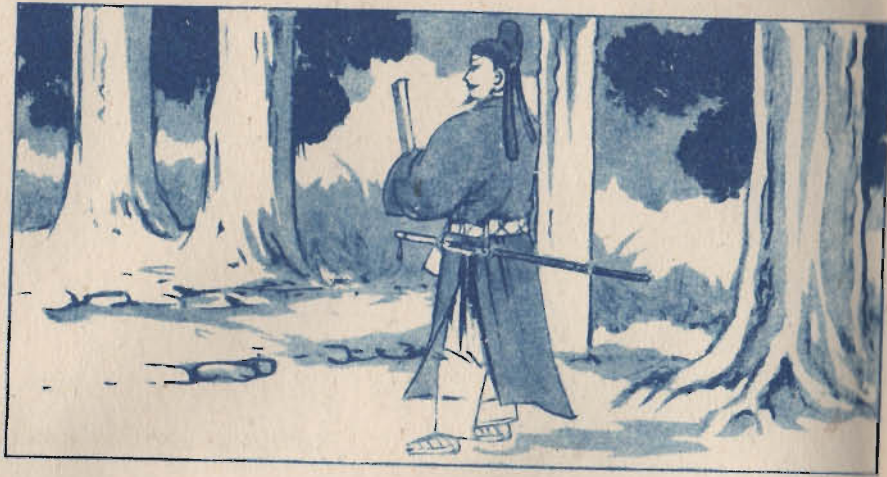
とあふせられたのは、御身をもつて國難に代らうと祈られた大御心をおよみなされたものと拜されます。なほまた、文永十一年蒙古が初めて來襲した時、筑前の筥崎八幡宮は賊軍のために燒き拂はれましたが、その後御造營の折に、龜山天皇は御みづから「敵國降伏」の四字を紺紙にお書き遊ばされ、これを神座の下に納められました。これは今なほ筥崎宮に保存されてゐます。

龜山天皇の御徳をしのびたてまつるため、博多灣のほとり、福岡市の東公園には御銅像が建てられました。

和氣清麻呂

聖武天皇は光明皇后と御一緒に、深く佛教を御信仰になり、佛教によつて國をお治めにならうと思召して、たくさんの寺院や佛像をおつくりになりました。國々には國分寺やあるひは尼さんだけの國分尼寺をお建てになり、奈良には有名な大佛のある東大寺を建立されました。

皇后もお情深く、施藥院や悲田院をつくられて、貧しい病人やみなしごをお救ひになりました。

このやうに佛教は皇室のあつい御信仰と御加護によつて、次第に盛んになりました。そして行基・良辨などの名僧も現れ、いろ〳〵世の中のために働きました。

ところが僧侶の中には、天皇の御信任の深いのに甘え、國の政治にまでもくちばしをいれる惡いものが出て來ました。中でも、稱德天皇の御代に、僧の道鏡といふものがをりまして、はじめ上皇の御病氣をおなほし申し上げてから、だん〳〵重く用ひられ、それをかさに着てわがまゝなふるまひをするやうになりました。つひには臣民として考へることすら勿體ない、大それた野心を抱くやうになりました。

そこで、天皇は大へんお驚きになり、和氣清麻呂といふ忠臣を宇佐八幡宮におつかはしになつて、神樣が何と申されるかをお聞きにならうとなさいました。

清麻呂は八月の末に、八幡宮に着きますと、熱心においのりをして、神樣のおつげをうかゞひました。九月なかば、都に歸つて來た清麻呂は、ちやうど秋の大空にうかぶ滿月のやうな清い氣持でありました。一點の雲もない、澄みきつた固い決心をしてゐたのです。

もちろん、道鏡に不利なことを申せば、自分の身が殺されることは覺悟をしてゐました。

神樣のおつげをお傳へするために、清麻呂は宮中へ參內いたしました。天子樣のおそばには道鏡をはじめ、文武百官が清麻呂の申し上げる言葉をかたづをのんで待ちうけてゐるのです。

清麻呂は閉ぢてゐた眼をひらくと、靜かに天子樣に申し上げました。

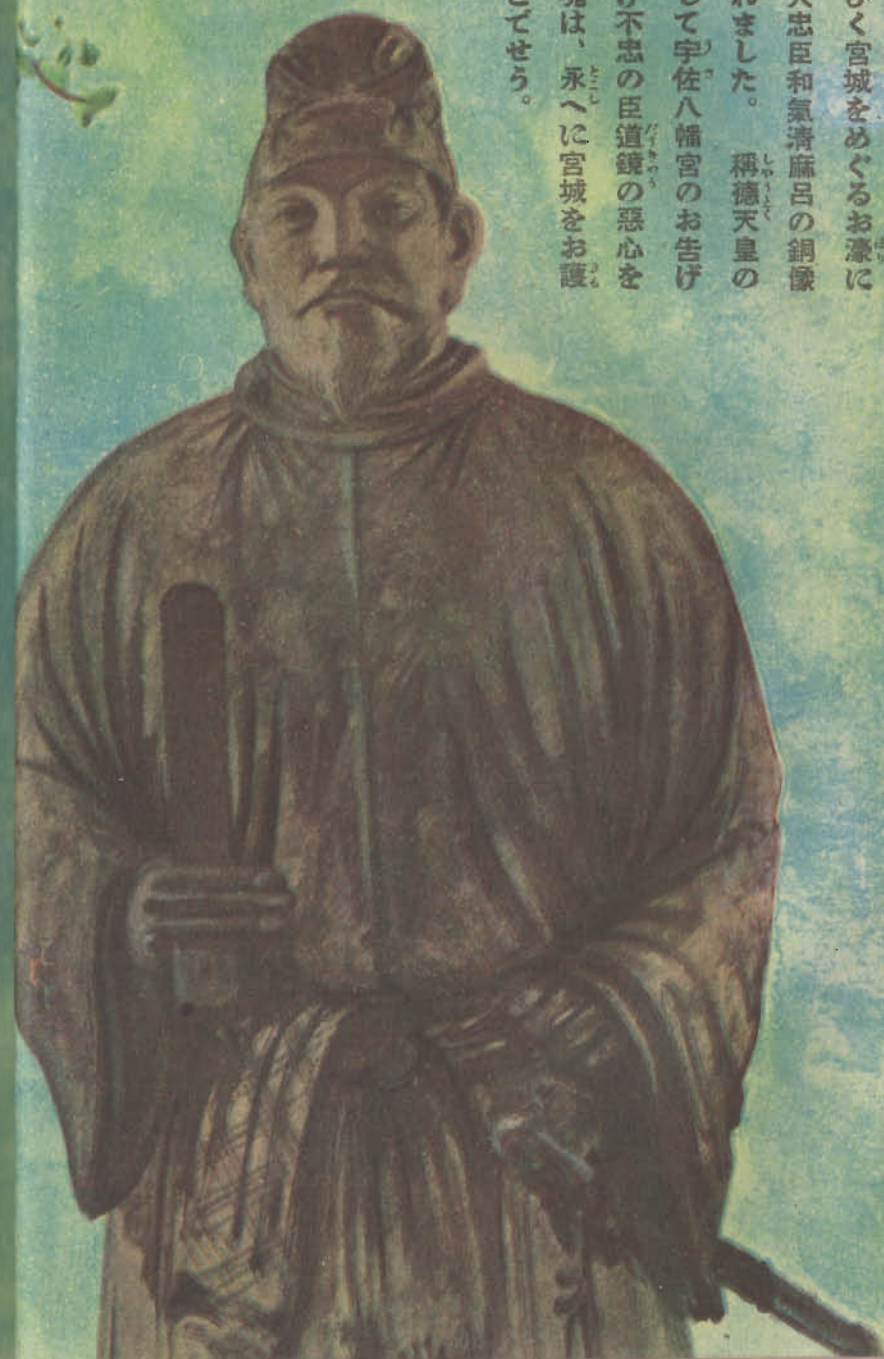
「わが日本の國では、昔から天子樣と臣民の道は明らかに定まつてゐます。いまだ臣民でありながら天子樣の御位についたためしはございません。天子樣は代々の御子孫を世嗣にお立てにならねばなりません。臣民としての道にそむいて、大それた望みを考へるやうなものは、一刻も早くこれをのぞかねばなりません。……これが宇佐八幡宮の神樣のおつげであります。」

と、清麻呂は堂々と報告をはりました。聞いていらつしやつた天子樣は、およろこびになりました。

道鏡は大へんに怒りました。清麻呂のことをけがれ麻呂などと惡口さへ言つて、位も役も取りあげ、大隅に流しました。宮中にお仕へしてゐた清麻呂の姉の廣虫をも、備後へ流しました。そして、道鏡は追手をつかはして清麻呂を殺さうとしましたが、にはかに雷雨が起り、はたすことが出來ませんでした。

このやうにして、清麻呂の忠烈によつて、萬邦無比のわが國體をまつたうすることが出來たのです。その後、光仁天皇の御代に、清麻呂も廣虫もゆるされて都へ歸つて來ました。ふたゝび宮中へお仕へするやうになつた清麻呂は、桓武天皇に申し上げて、奈良の都を京都にうつすやうにしました。

そのわけは、奈良があまり佛教が盛んになりすぎて、僧が專橫になつたことゝ、交通の不便が

皇紀二千六百年の佳き年、九重の雲たなびく宮城をめぐるお濠に臨んで、大忠臣和氣清麻呂の銅像が建てられました。稱徳天皇の思召を拜して宇佐八幡宮のお告げを申し上げ不忠の臣道鏡の惡心を除いた忠魂は、永へに宮城をお護りすることでせう。

多いこと、そして平安（京都）に都をうつして、人心を新たにし、よい政治をなされるやうにといふ考へからだつたのです。

清麻呂は、桓武天皇に申し上げて、攝津と河內の間に運河をひらいて、人々の利益をはかつたこともありました。大忠臣和氣清麻呂は六十七歳で亡くなりましたが、清麻呂の三人の子も忠義の心が深く、學問にすぐれて、人々から尊敬されました。

東京の中央氣象臺の近く、宮城のお濠のかたはら、紀元二千六百年の佳き年に、和氣清麻呂の銅像が建てられました。見よ、それは大忠臣清麻呂が大地に力強く足を踏み、これから宮中に參內して宇佐八幡宮の神樣のおつげを申し上げようとしてゐる崇高い姿です。その忠魂は永へに香しく宮城をお守りするとゝもに、わが大日本帝國の國威を輝かしてくれることでせう。

京都にある護王神社は、清麻呂と廣虫をお祀りしてあります。

おそれ多くも、明治天皇は、明治三十一年和氣清麻呂に正一位をお贈りになつて、その忠節をおほめになりました。

楠木正成

正成の義兵　わが國は建國以來、萬世一系の天皇が親しく政治をおとりになつてゐられましたが、鎌倉幕府の北條氏はあまりに專橫にふるまひ、政治の事まで口をいれるやうになりました。そこで後醍醐天皇は幕府を滅ぼさうと思召され、正中元年、日野資朝・日野俊基らと御相談になり、ひそかに諸國から勤王の武士を召されましたが、この謀が幕府方に知れて失敗にをはりました。しかし天皇の御志は、いよ〳〵堅く、勤王の武士を集められたので、「幕府討つべし」の意氣は方々にあがつて來ました。

元弘元年八月、北條高時は、大軍を京都に攻め上らせま

したので、おそれ多くも天皇は神器を奉じて、夜の間に笠置山へ行幸になりました。そして、近國の義兵をお募りになりました。

その頃、河内國にゐて武士道をはげんでゐた楠木正成は、逸早く赤坂城に立てこもつて勤王の兵をあげましたが、つひに笠置がおちたので、天皇は赤坂城にお逃げにならうとなさいましたが、途中賊軍にとらはれて、讃岐にお移されになりました。

千早城　「私一人がまだ生きて戰ひつゞけますから、天子様にはどうぞ御安心下さいませ。」と、涙をふるつて、楠木正成は後醍醐天皇にお答へいたしました。そして、正成の部下には、金剛山のふもとで鍛へあげた六百人の一族がゐましたが、正成のふりかざす菊水の旗のもと、正成得意の山岳戰や計略戰をつかひ、雲霞の如き鎌倉幕府の大軍を向ふにまはして戰ひました。

熱湯を浴せかけたり、大石をころがし落したり、藁人形をつかつたりして、敵軍を數ケ月にわたつて悩ましつゝ力戰したことは有名です。折から護良親王は吉野にいらつしやいましたが、諸國にお命じになつて、勤王の兵をお集めになりました。播磨の赤松則村、肥後の菊池武時、伯耆の名和長年、伊豫の土居通增、あるひは東國の新田義貞らが一せいに立ち上つて、つひに鎌倉幕府は打ち滅ぼされました。時に紀元一九九三年、元弘三年五月の末でありました。

尊氏の叛　鎌倉幕府が滅んだので、後醍醐天皇は直ちに船上山の行在所を出發されて、還

幸の途につかれました。これを途中にお迎へした楠木正成らを先陣として、京都にお入りになりました。そして、ふたゝび政治は朝廷にかへりました。これを建武の中興といひます。楠木正成は檢非違使左衞門尉といふ役をいたゞき、攝津・河内の二國を賜りました。

こゝに、幕府再興の野心を起したものがゐます。足利尊氏です。尊氏は鎌倉によつて叛旗をひるがへし、新しい政治をよろこばない將兵を集めて、次第にその勢ひを增し、つひに征夷大將軍と豪語して、官軍に手向ひました。ところが楠木正成や新田義貞に破られて、九州へ逃げましたが、ふたゝび水陸の大軍を率ゐて都をさして上つて來ました。

楠木正成は新田義貞の本隊と合流して、尊氏の軍勢を迎へうつために、兵庫に向つて出發しました。正成はもとより生きてかへらうとは考へてゐませんでした。深い決心を胸に秘めてゐましたから、その途中、櫻井の驛で、わが子正行を呼びよせて、武士の道について、ねんごろにさとしました。そして

「一族のうちで、一人でも生き殘つてゐるうちは、必ず金剛山に引きこもつて朝敵と戰はなければならない。これが父への何よりの孝行である。」と、言ひきかせました。その時正行は十一歳の少年でありました。

七生報國　楠木正成・新田義貞らは、尊氏の大軍を湊川にむかへて奮戰しましたが、衆寡

宮城のお膝元、緑の松かげに仰がれる馬上軍装の大楠公の姿こそ東京で最も有名な銅像の一つであります。七度生れ變つて國賊を討たうといふ忠烈は史上不滅に輝きわが武士道最高の鑑として、國民の尊敬を一身に集めて居ります。

敵せず、刀折れ矢つきて正成は身に十一の創を受け、つひに弟正季と差しちがへて戰死をとげました。その最期に正成は、

「これ以上生きながらへても、成しとげることの出來ないほどの大きな仕事を、今こゝで死ぬことによつて成しとげるのだ。」といふことを部下に告げました。

正成は自分の最期を悲しいとは思ひませんでした。正成は尊氏を破ることが出來たのです。しかし、尊氏一人を殺しても、日本人としての心にめざめないものがあることを知つてゐたのです。これは延元元年五月二十五日でありましたが、武將楠木正成は千古の後までも、日本人の心の中に生きて居ります。七度生れかはつて國賊を滅さうとする正成の精神は、武士道の鑑として今日に至るまで幾多の忠臣の手本となりました。

宮城のほとり、綠こい松の林の中に、楠木正成の銅像が建つてゐます。鎧兜に身をかため、駿馬に打ちまたがつて、戰場に三軍を叱咤する勇ましい姿です。

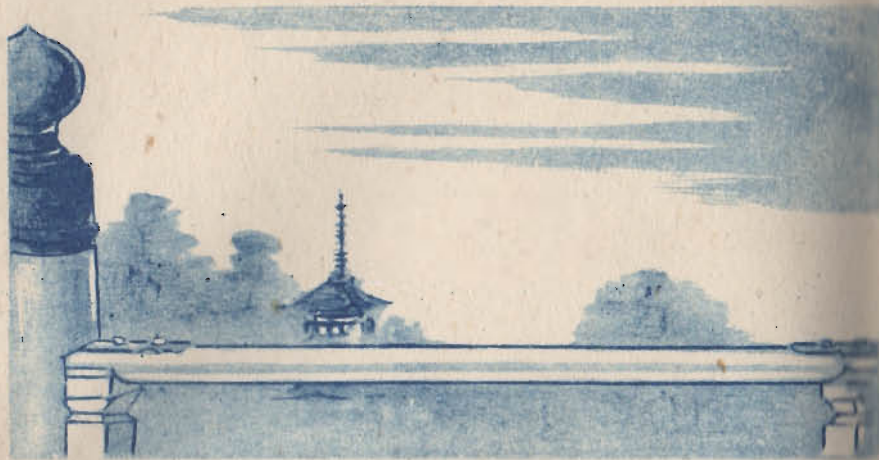
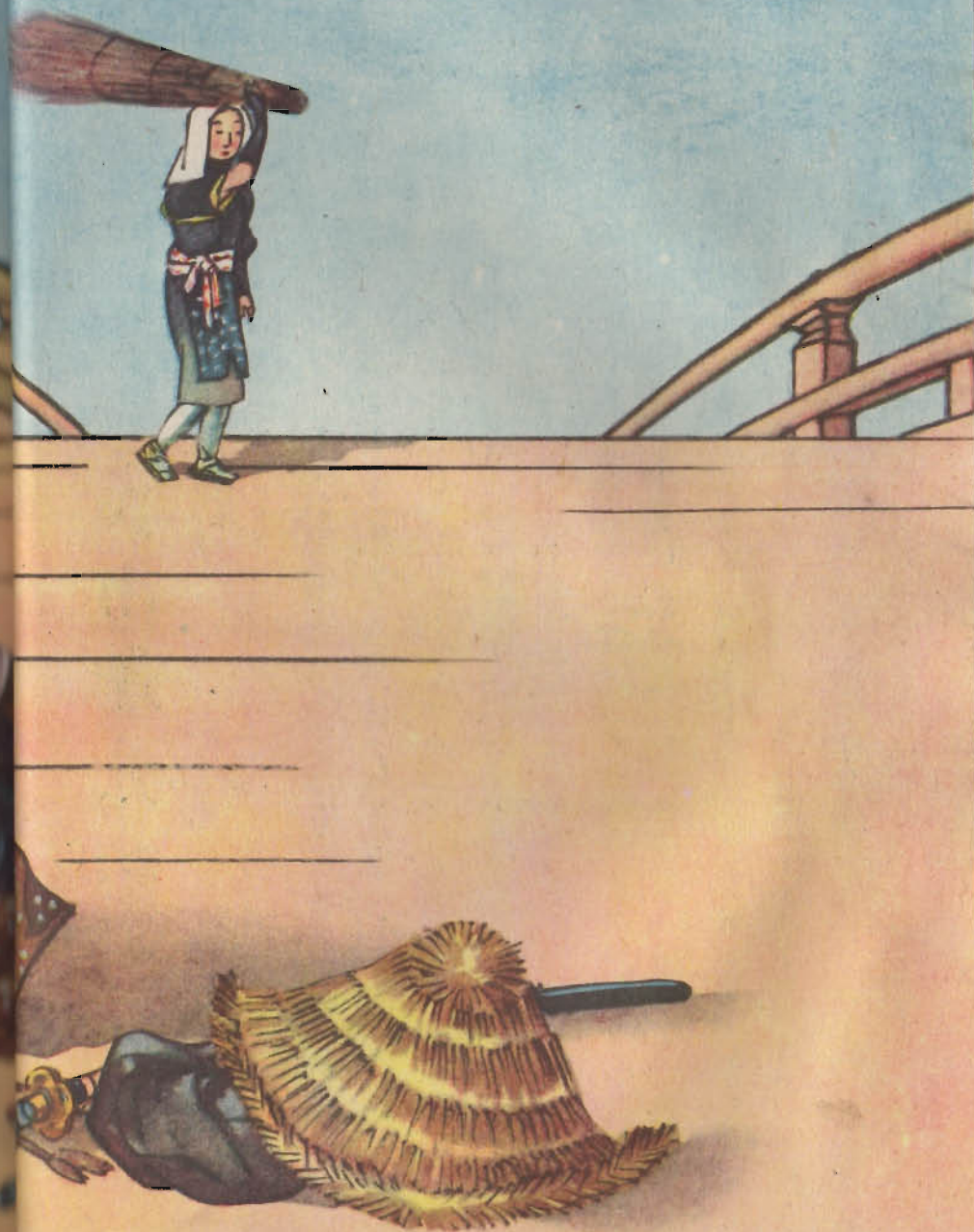
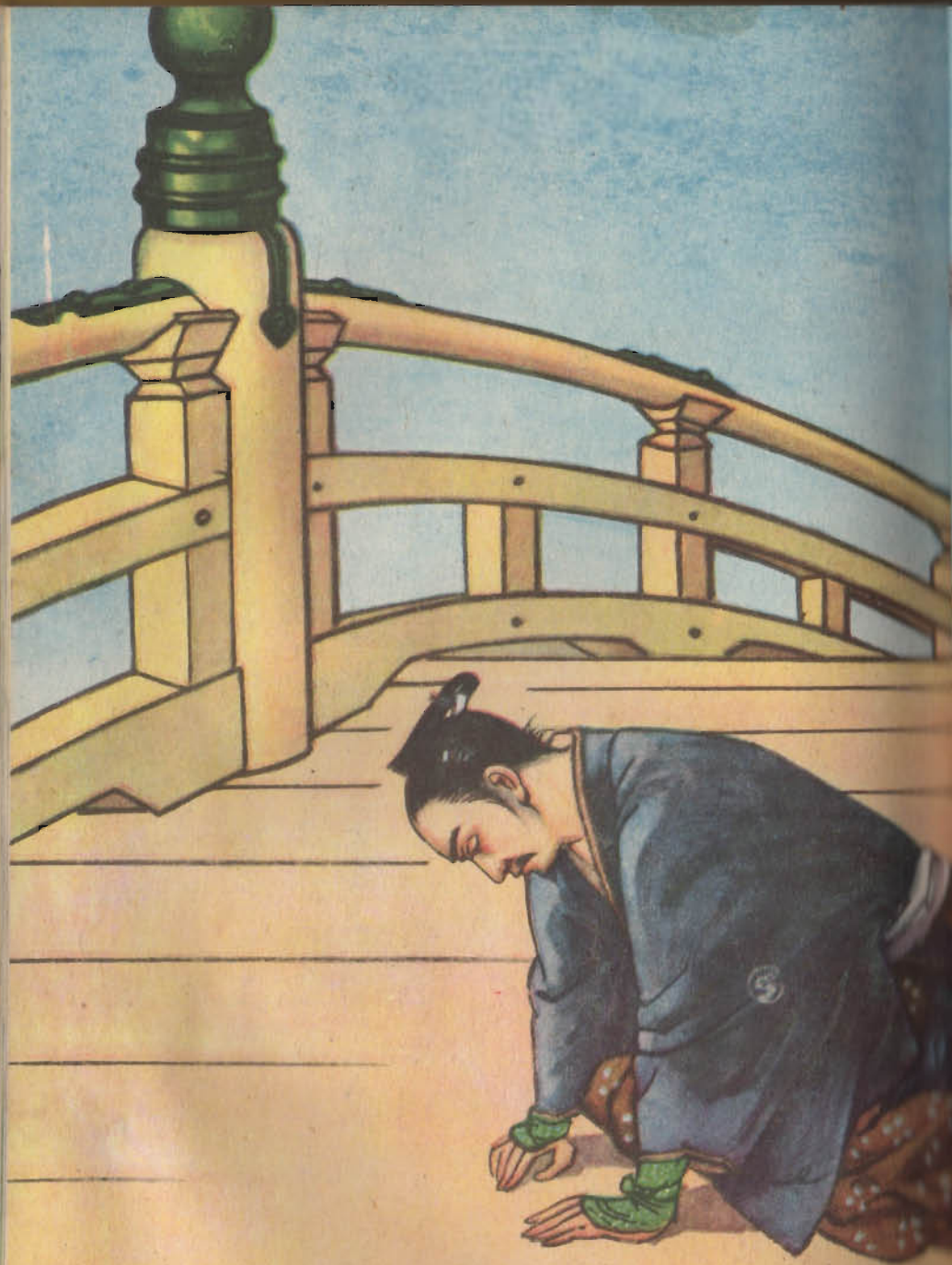
また、神戸市にある別格官幣社湊川神社は楠木正成を祀り、境内にある正成の墓には「大日本史」を著はした水戸光圀が、

「嗚呼忠臣楠子之墓」

と墓碑名を書きました。

高山彦九郎

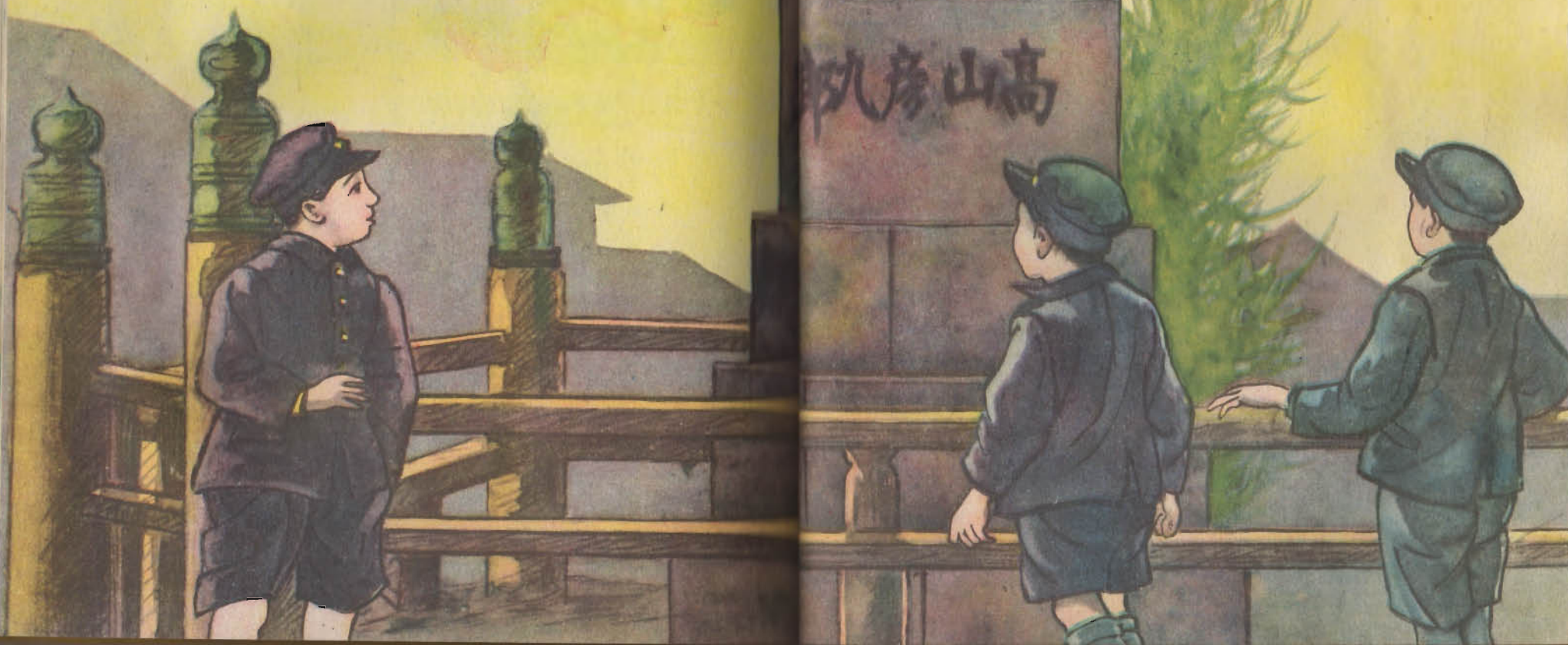
太平記を讀む　高山彦九郎は上野國新田郡細谷村の農家に生れましたが、家が舊家なので苗字帶刀を許されました。その頃は國學がさかんで、わが國體の尊いわけを人人は知り、日本は萬世一系の天皇がお治めにならなければならない、幕府が政治をとるのは正しいことでないといふ尊王の論が勢をまして來たのです。

彦九郎は早く兩親に死わかれたので、祖母の手で養はれました。生れつき勇氣があり、その上大へん孝心が深く、學問が好きでした。晝のうちは一心に農業を手傳ひ、日が暮れてから遠い道を歩いて先生の家へ通ひました。夜のふ

けるのも忘れて勉强をして、一日もおこたることがありませんでした。
彦九郎が十三の時です。そのころ、人々に大へん讀まれてゐた太平記をはじめて讀みました。楠木正成や新田義貞らの建武の中興の忠臣の行を知つて感激してしまひました。そして忠臣の誰も彼もが、志を全ふすることの出來なかつたことをなげき、大いに發奮するところがありました。

皇居を拜す　十八歳の時、彦九郎は京都に出て書を學び、それからは、武者修行にならつて、學問のある人や徳の高い人をたづねるために、諸國をへめぐり歩きました。その行く先々で、有名な學者やえらい人と交りを結び、いつも熱心に皇室の尊いいはれを説きました。さうして、皇居のある京都を通りすぎる時には、かならず御所の門の前へ行つて、地にひれふして、うやうやしく拜むことを忘れませんでした。

三年の喪　彦九郎を育てて下さつた大切な祖母が亡くなつた時のことです。
彦九郎は氣をおとして、なげき悲しみました。三年の間、祖母のため喪に從はうと思つた彦九郎は、祖母のお墓のかたはらに、わらの小屋をつくりました。
彦九郎は、そのわらの小屋の中に入つて、暑さ寒さもいとはず、また風の日も雨の日も閉ぢこもつてゐました。
この様子を見た近所の人が、
「祖母が亡くなつたからといつて、そんなにていねいにすることは、[illegible]ではないでせう。」
と、彦九郎にたづねました。すると彦九郎は、
「私は小さい時に父母にわかれてからといふものは、祖母の手一つで育てられて大きくなつたのです。つまり父母の恩を祖母からうけたわけです。それだから、このやうにして、亡き祖母につかへるのです。」
と答へたといふことであります。

天顔を拜す　その頃、ロシアの船が、蝦夷地（北海道）に來て、わが北海の領土をひそかにねらつてゐました。彦九郎は大へん心配して、みづからその實情をたしかめようとして、寛政二年に北海におもむき、南部津輕をとほつて、蝦夷地に渡り日夜奔走しました。しかし、尊王の志はいつしか彦九郎を引きもどすのでした。
海路から京都にもどつた彦九郎は、翌年は西日本をめぐり、そしてまた、京都に歸つて來ました。
その時、鴨川の流れから、綠の毛をつけた龜を見つけて、これはおめでたい兆であると喜びました。彦九郎はこの龜をお上へさし上げますと、これが光格天皇の天覽に入り、特別のお思召をもつて、天顔を拜する光榮に浴しました。

京都の三條大橋のたもとに、兩手をついて遙かに皇居を拜んでゐるのは、勤王の志士高山彦九郎の銅像です。尊王を説いて全國を巡り歩いた彦九郎が、京都を通る時にはいつもかうして御所の門前にひれ伏して皇居を拜みました。この情景を想像して誰か心を打たれぬ者がありませうか。銅像の臺坐には東郷大將の書が刻まれてあります。

我をわれと思召すかやすめらぎの玉の御聲のかゝるうれしさ

この時の彦九郎の歌であります。感涙にむせんだであらう彦九郎の心持がうかゞはれるではありませんか。

彦九郎の死　尊王論が盛んになると、朝廷の御威光の衰へたのを歎く志士がつぎ〳〵にあらはれました。彦九郎のほかに諸國の御陵をめぐつた蒲生君平もその一人です。彦九郎と君平と林子平を寛政の三奇人といふのです。

しかし彦九郎は、それほど熱心な尊王の志士でありながら、つひに志を得ませんでした。彦九郎はふたゝび九州に出かけました。そして筑後の久留米で森嘉膳の家に世話になりましたが、病氣になつたらしく、或る日、永い間かゝつて書きためた書ものをずた〳〵に破つて棄て、自殺をとげました。その時、皇居と故郷のある東の方を拜んで膝一つくづさず坐つてゐました。寛政五年、彦九郎は四十七歳でありました。

明治十一年、高山彦九郎は正四位を贈られ、また、上野の太田町には彦九郎を祀つた高山神社が建てられました。

彦九郎の銅像は京都三條大橋のほとりに建つてゐます。兩手を大地について、はるかに皇居を拜んでゐる姿こそ、彦九郎の尊王の精神をよくあらはしてゐるものといへませう。

大村益次郎

修業時代　明治維新の功勞者であり、わが國に陸軍を初めて設けた大村益次郎は、文政七年に周防國に生れました。父が醫者であつたので、益次郎も醫學を志し、十九歳の時、醫學修業のため周防で名高い蘭學醫梅田幽齋の門に入つて勉強しました。けれども醫者の本を見るには、漢學の力が必要であるとさとつた益次郎は、翌年九月に廣瀬淡窓といふ漢學者の塾に入ることになりました。

天保十四年四月一日、わが家を旅立つその日のこと、ちやうど阿武郡の羽賀臺といふところで、長州藩の武備訓練が行はれました。參加人員一萬四千三百餘人、馬三百餘頭、

駄馬二百二十餘頭といふ大部隊が、陣形を洋式にならつての大教練でした。これを耳にしながら、九州へ勉強に行かうとする大村益次郎の心持はどんなであつたでせう。やがて陸軍大臣となり、數々の軍事施設を行つた益次郎は、その時何を心に決したでせう。

國の病を治す醫者

長崎や諸所方々で勉強をつんだ益次郎は、いつまでもよそに出てゐては兩親も困られるだらうと、郷里に歸つて醫者を開業することにしました。けれども、立派な着物を着込んだり、病人に頭を下げたりすることが益次郎には出來ませんでした。そして自分がむづかしい理窟を言つたり、蘭學の講義をしたところで、これも亦普通の人にはわかりません。それでも辛抱が大切であると、忍耐をつゞけましたが、兩親の心を滿足させることが出來ません。それに、當時の外國の狀況も、日本の國内のうはさも、どうしてものんびりとしてゐる時ではない。こゝで發奮しなければならぬと思つた益次郎は、大阪に旅立ちました。

その頃、伊豫の宇和島の伊達侯から、藩に來て、蘭學教授、兵學飜譯など教へを受けたいからといふ話がありました。そこで益次郎は、自分は醫者はたうていだめである。病人に頭を下げることが出來ぬ。昔の人が言つてゐるやうに良い醫者は國の病を治すのだ。自分も、國家の幸福をはかり、お國のお役に立ちたいと決心して、宇和島の藩に百石で仕へることになりました。

彰義隊を撃つ

大村益次郎の名前を一躍ひろめたのは、彰義隊戰爭でした。明治元年五月

十五日、上野にたてこもつた彰義隊に官軍は總攻擊を開始しました。德川家に恩義を感じ、主家のためにと起つた天野八郎以下一千名が戰を起したからです。折から梅雨の季節で、朝から雨は降りつゞいてゐます。ぬかるみの中で、戰の火蓋は切られました。

益次郎は四十六歲で、官軍の總指揮として、午後六時までには、必ず打ちまかす決心をしてゐました。それは敵軍が夜中になつて、江戸市中に逃げ散じて、火を放つおそれがあつたからです。薩摩・肥後の軍隊は、西鄕隆盛がみづから指揮して黑門口から攻め寄せましたが、正午になつても、ます〳〵苦戰するばかりです。西鄕の使者は本營にゐる大村益次郎のもとへかけつけました。

「苦戰でごわす、援兵をお廻し下されたい。」

これを聞いた益次郎は靜かに、

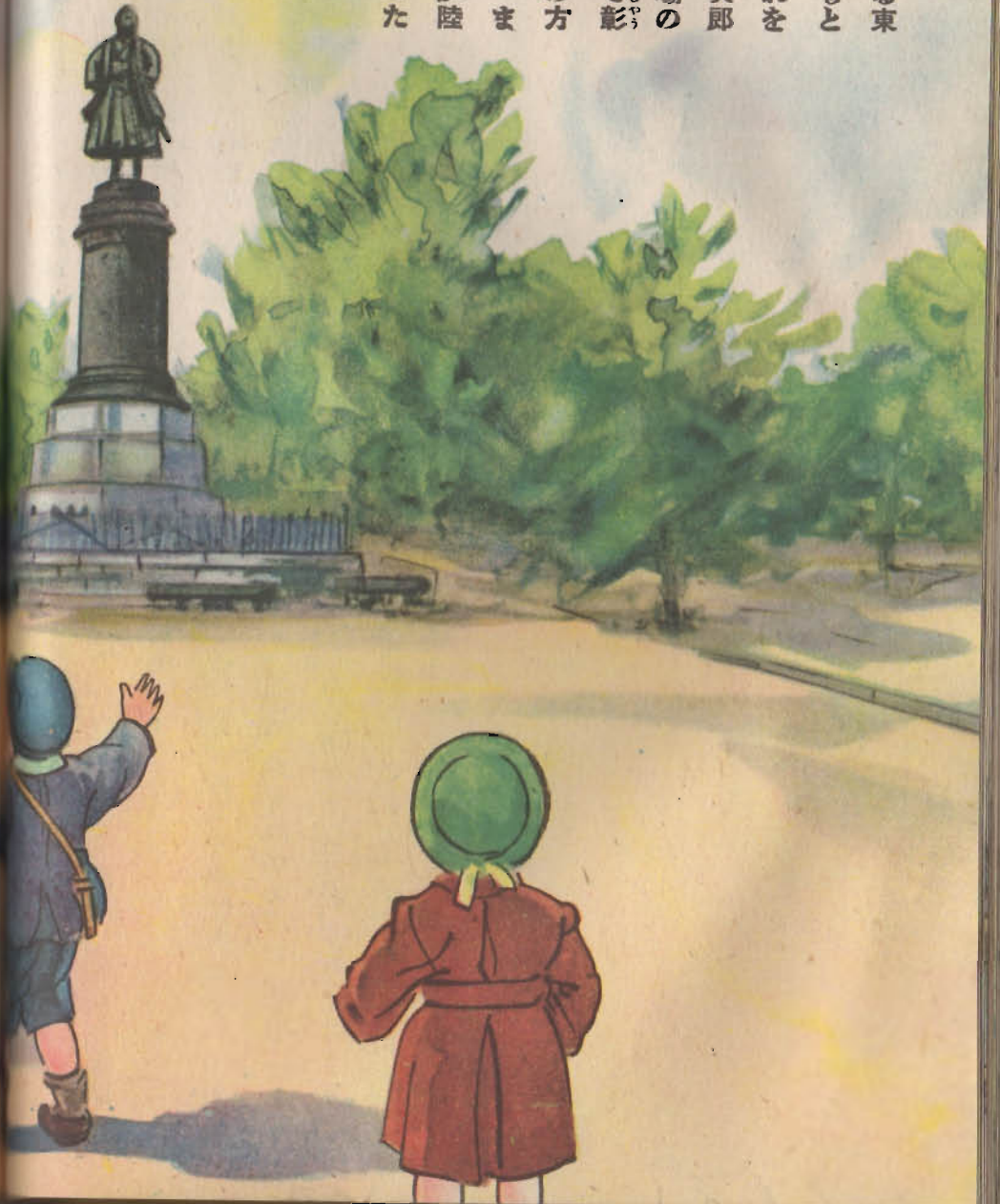
「薩摩の兵は、たかゞ上野の一つも陷せぬのか。」

「强ければ陷せる筈だ。」

「よか、援兵はおことわり申す。」

使者が歸つた後、益次郎は手を打つて、

「それでこそ、さすがは九州の武士だ。黑門口も一刻たゝず陷るであらう。」

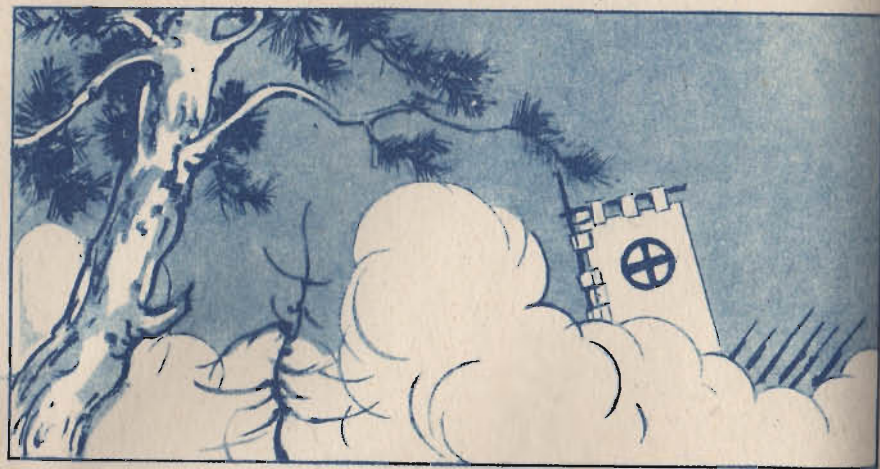
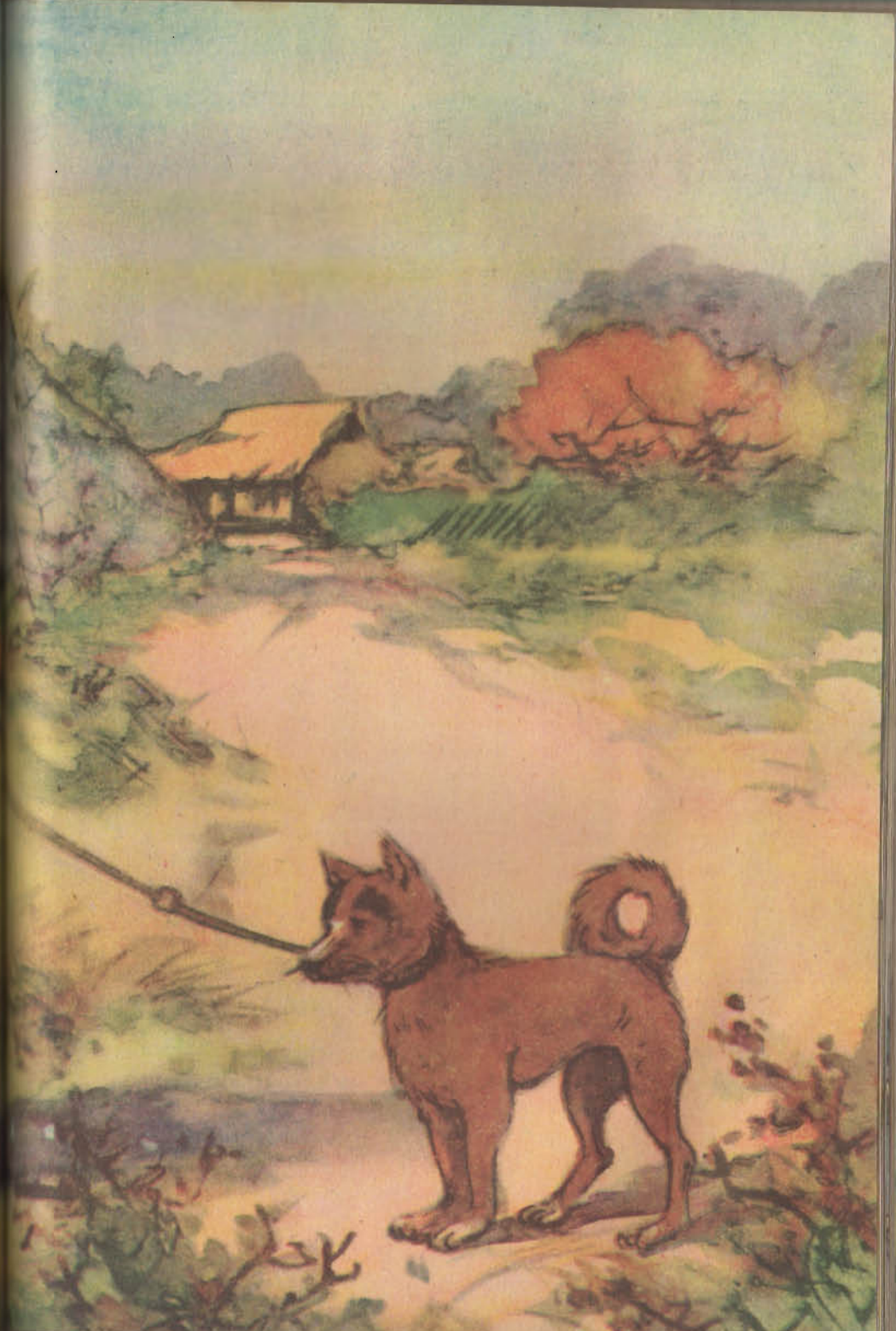
護國の英靈を祀る東京九段靖國神社はもと招魂社とよばれこれを建てたのは大村益次郎です。いまその廣場の中央に銅像となつて彰義隊と戰つた上野の方をにらんでゐます。また大村益次郎はわが陸海軍の基礎をつくつた偉人であります。

薩摩の使者は西郷にこの旨を告げました。隆盛は笑つて、
「よか、薩摩の力を見せようか。」
たちまち、全軍に悲壯な意氣が燃え上りました。雨と飛ぶ彈丸を物ともせず、斬りまくり、黑門口へなだれ込んだのです。それに各方面から官軍は大砲を打ち込み、山上の敵陣地は崩され、彰義隊の運命は、こゝにきまつたのです。益次郎は湯島臺から望遠鏡で戰況を見まもつてゐました。敵が吉祥閣に放つた火が天に昇るのを見て、もういゝと、膝をたゝきました。この時の益次郎の姿が靖國神社に銅像となつて立つてゐるのです。

益次郎の功勞　わが國陸海軍の制度をつくつたのが兵部大輔(陸軍大臣)大村益次郎です。外國の長所をとり入れ、しかも日本に一番適する軍隊をつくらうと考へました。天皇の兵をつくるのでなければだめである、そして、全國民の中から身體、精神、知識のすぐれたものを選び出さうと徵兵のもとをつくりました。兵器をつくる造兵局、病氣や負傷した兵のために軍事病院などを設けたり、海軍には鎭守府をおいて軍艦の集るところを定めました。そして、護國の英靈となつた將兵を祀る招魂社を建てました。明治二年九月、益次郎は京都で兇漢に刺され、十一月五日、大阪の病院で四十六歲を一期に亡くなりました。招魂社は靖國神社の初めです。益次郎は從三位を贈られ、その銅像は九段の靖國神社の境內に、明治二十六年に建てられました。

西郷隆盛

維新の隆盛　西郷隆盛は月照らといつしよに勤王をとなへ、徳川幕府をたふさうとしてゐたので、幕府から大へん憎まれました。そして追手がはげしいので、つひに月照と抱き合つて、大崎ケ鼻沖に身を投げましたが、月照は絕命し、隆盛は救はれて蘇生しました。それから、隆盛はいよ〳〵勤王の志をかたくしました。

慶應三年十二月、王政復古の大號令は發せられ、維新に手柄のあつた西郷隆盛は參與職に任ぜられました。

勤王黨である薩長の兵を追つ拂つて、徳川幕府の世の中にしておかなければならないといふ佐幕軍が、京都へ押し

よせて來たので、つひに鳥羽、伏見の戰ひとなりました。明治元年正月のことです。
この時、總參謀隆盛は薩州と長州の勤王軍を指揮して奮戰、幕軍をさん〴〵破つたので、將軍慶喜はつひに大阪から船で、江戸へ逃げ歸りました。これから勤王軍の勢はます〳〵さかんになつて、薩・長・土・肥の諸藩が力を合はせ、王政復古に盡したので、德川慶喜も政權を返上する決心をするやうになりました。
それには幕臣勝安芳が、天下の形勢がます〳〵勤王に傾いて、皇室につくし奉る忠誠の心が、もはや動かすことの出來ないほどさかんになつて來たことを知つて、將軍家に說いたことも、あづかつて力があつたのです。
勝安芳は西鄕隆盛と芝の薩摩屋敷に會見して、江戸城明渡しを約束しました。そこで慶喜は江戸城を立ちのいて、水戸に隱居し、謹んで政權を返上しました。
それで、幕臣らの中には不平を起し、ふたゝび德川の世にしようと、彰義隊をつくつて官軍に反抗したので、西鄕隆盛は征討の大命をうけて、官軍の將として、上野に進み、黑門口から攻擊を開始しました。彰義隊も奮戰しましたが、官軍の攻擊は次第に猛烈となり、つひに黑門口に破れたので、彰義隊は敗軍となり、中仙道から會津城へと敗走してしまひました。
會津に入つた彰義隊は、會津の軍勢と共に籠城することになりましたが、官軍はこれを討伐す

るために、一方は白河口、一方は越後口から進んで會津城下に迫りました。會津藩の勇將猛士らは、死を決して奮戰したので、一時は非常な激戰となりましたが、皇軍には敵すべくもなく、次第に敗退し、今は危急の場合となつたので、十五六歲の少年勇士が白虎隊をつくつて戰ひましたが、あはれにも飯盛山に自刄してしまひました。この戰ひに、隆盛は北越出征軍の大將として、北陸、東北の各地に轉戰し、越後では弟吉次郎が戰死しました。そして、十月に鹿兒島に凱旋しました。

閑日月

故鄕に歸つた西鄕隆盛は武村といふところで、毎日のやうに獵犬をつれて山や川を歩きまはつて、兎や猪などの狩をして、たのしんだり、時には百姓になつて田を耕したり、詩を作つたり書道にはげんで、悠々と暮してゐました。そのころの隆盛の姿は、銅像となつて、東京上野公園に建てられ、少年少女はもとより、日本人のみんなに親しまれてゐます。つまり、身命を惜しまず戰つた維新の大業が出來上ると、あとは人にゆづり、自分は功をほこらず、賞を求めず、故鄕で田園生活をしたところに西鄕隆盛の偉人としての大きなところがあるのです。

征韓論に破れて

しかし、朝廷では維新の大功臣である隆盛をそのまゝにしておきませんでした。勅使をおつかはしになつて、參議の役におつかせになりました。隆盛は近衞師團の基礎をつくり、警察制度も定め、その上、藩をやめて、全國に縣をおくことを實行したのです。

犬をつれた西郷さん、誰にも親しまれてゐる東京上野公園にある有名な銅像です。維新の大業に身を捧げた西郷隆盛が叛軍を討つて鹿兒島に凱旋してからは、故郷の山野をかういふ身輕な姿で獵犬をつれて歩きまはりました。西郷さんの偉大な人格の一面をよく表はしたものでせう。

明治天皇のお側にあつて、一意お國のために力をつくしたのでありました。

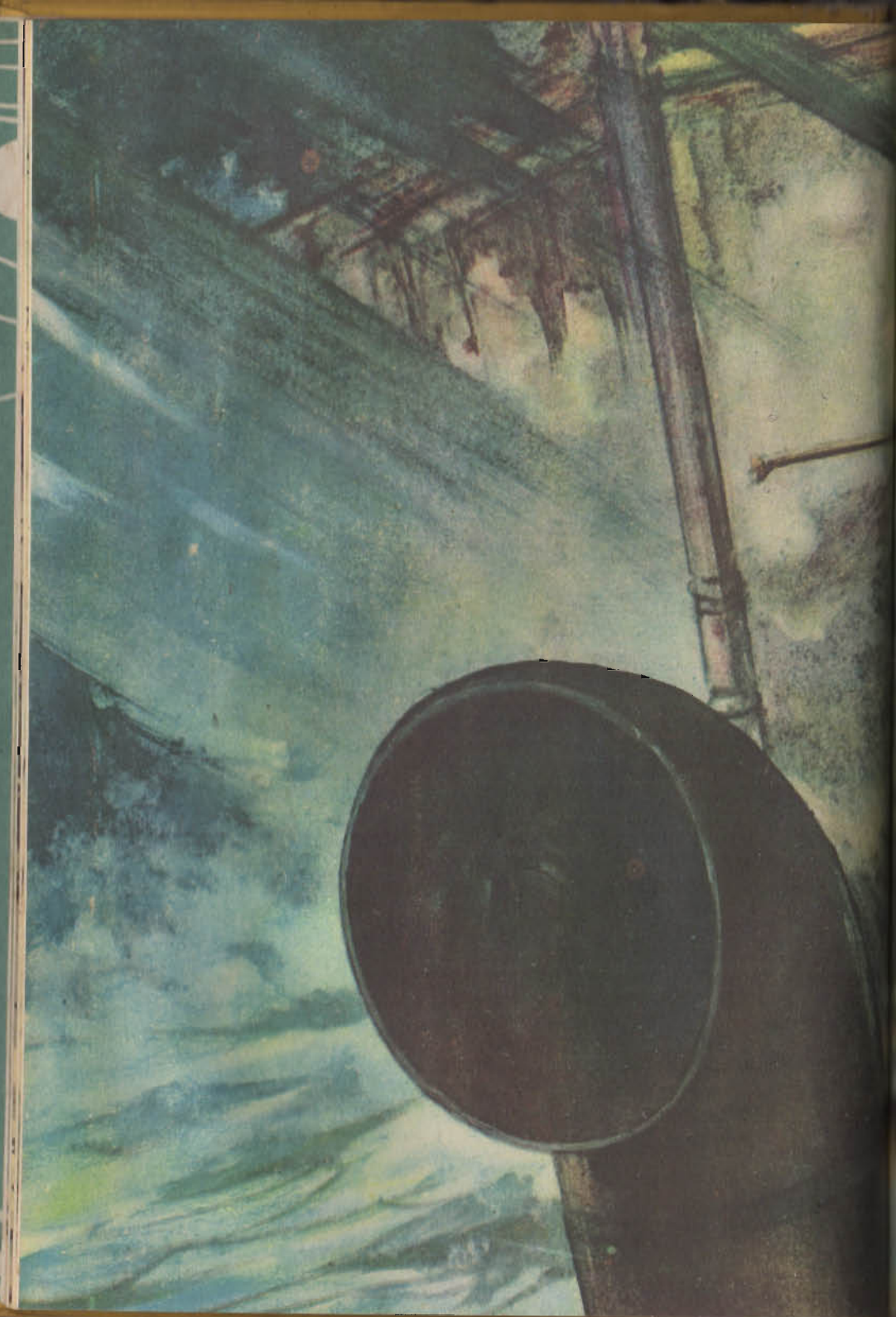
その頃、朝鮮がいろ〳〵と新政府に對して無禮をはたらいたので、朝鮮を討たうといふ、征韓論がさかんになりました。陸軍大將で參議の隆盛は、みづから大使として京城に乘込み、朝鮮をさとし、それでもきゝ入れないで害をするときには、堂々と征伐の軍を起すべきだと主張しました。そして、これが決らうとした時に、歐米視察から岩倉具視が歸つて來て、今はその時でないと反對しました。西郷隆盛は參議を辭して、ふたゝび鹿兒島へかへりました。桐野利秋、篠原國幹らも職をやめてかへりました。

隆盛は私學校を起し、青年を教育しました。他日、國家のお役に立てたいといふ深い考へからでしたが、はしなくも、これが明治十年には西南の役となつて、弟子たちと共に熊本城へ攻めよせることになりました。しかし戰ひはつひに破れ、田原坂、吉次越の激戰の後に、隆盛は城山で最期をとげました。

明治二十二年二月十一日、憲法發布の日、明治天皇は、隆盛の生前の功勞を思召され、十年戰亂の罪をゆるし、特に正三位を追贈せられました。

廣瀨中佐

日露開戰　明治三十七年二月十日、わが大日本帝國はロシヤに宣戰を布告しました。當時そのまゝ打捨てゝおけば、ロシヤは滿洲を占領し、朝鮮に侵入し、つひにはわが領土まで脅迫する勢でした。そこで、國を賭しての一戰あるばかりです。最後まで戰ふ決心の下に、國民は一團となつて國難にあたることになりました。

ロシヤの軍備は、軍艦や潛航艇の數も日本よりはずつと多く、しかもすぐれてゐました。陸軍の兵力も、極東にとどまつてゐる兵だけでも日本の何十倍といふほどでした。ヨーロッパとアジヤにまたがるこの大強國と、日本は戰爭

をはじめたのです。
日本の戰略上、いくらかでも有利に思はれたのは、敵海軍の東洋艦隊が旅順とウラヂボストツクとに二分されてゐたこと、敵陸軍の輸送がそのころ單線であつたシベリヤ鐵道一本しかないことでです。そこで、わが海軍は旅順港にゐる敵艦を袋の鼠にしてしまはうといふ作戰をしました。
旅順の港は、地圖で見てもわかるやうに、最も狹いところは、七千噸の船が横になつても閉塞出來るほど狹いものでした。

中佐の覺悟　港をふさぐといつても非常な危險です。敵艦は前にゐる、砲臺は後にある、死の港へ進むも同じでした。それで全艦隊に命令が下り、決死隊を集めることになりました。ところがこれに應ずる勇士は、われもわれもと出て、二千名にも達しました。指を切つて血書を出して願ふものさへあつたのです。

大分縣の人、廣瀬武夫中佐（當時少佐）は第一回の閉塞隊に參加しました。五隻の船で進んだのですが、目的の場所へ着く前に、敵に發見されて、思ふやうな効果はあがりませんでした。つゞいて第二回の閉塞隊として出かけることになつて、中佐は兄の武比古といふ人に手紙を書きました。

「唯今から私は第二回の閉塞隊として、福井丸に乘つて出かけます。いたゞいた激勵のお手紙は懷にあります。私は神のたすけを固く信じて必ず成功を期して居ります。武士として決して家

名を汚すやうな行はいたしません。七度人間に生れかはつて、國に報います。一死心にかたく、ふたたび成功を期して居ります。唯今、笑ひながら船に乘り込みます。

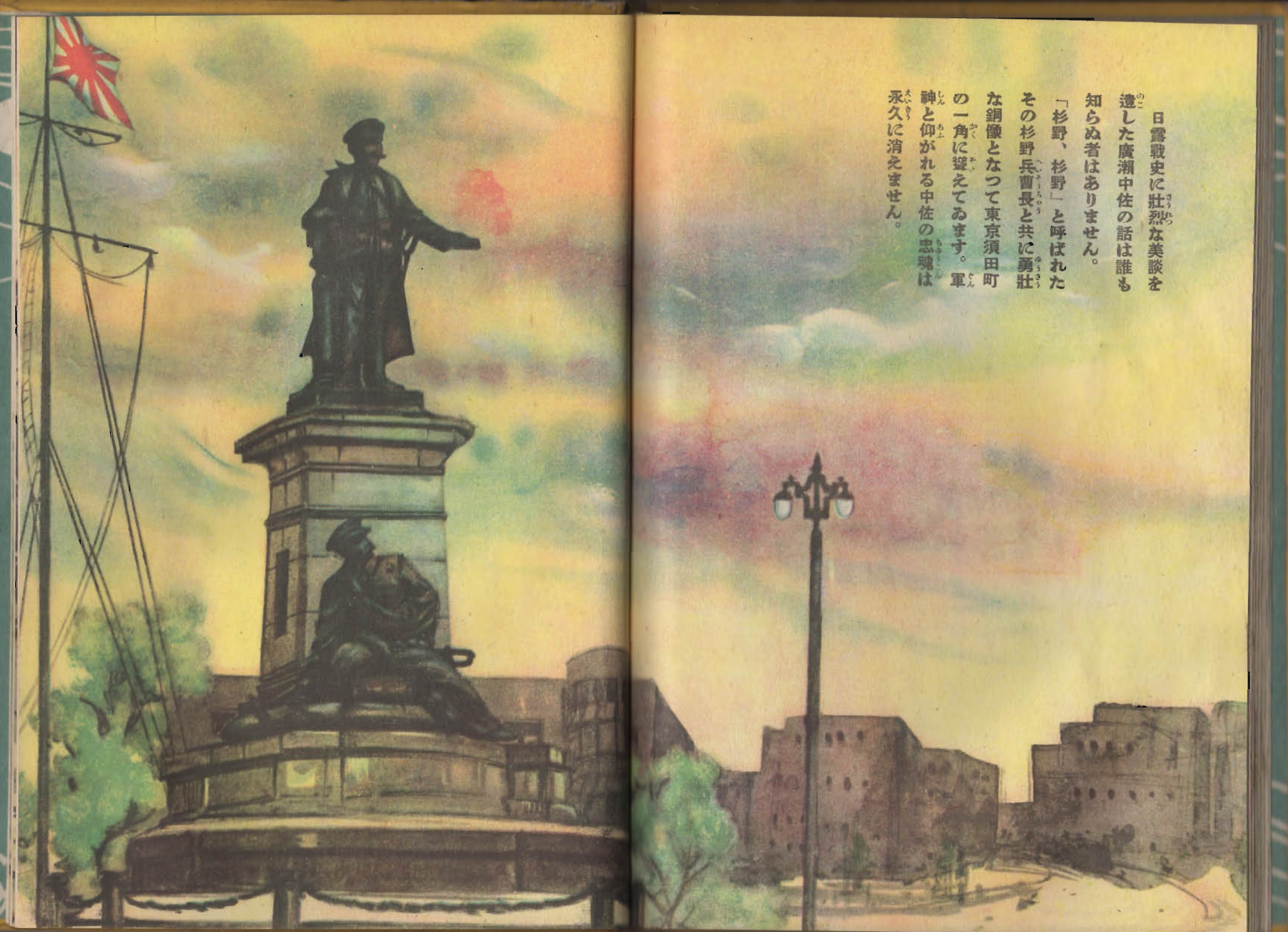
明治三十七年三月十九日　　　　弟　武　夫」

廣瀬中佐のこの精神こそ、楠木正成の七生報國の武士の心がまへだつたのです。一度死んでも何度も何度も生れかはつて、國賊を滅して見せるといふ愛國の熱誠であります。

閉塞隊　三月二十七日、福井丸は千代田丸・米山丸とともに旅順の港口に差しかゝりました。敵は早くもこれを發見して、彈丸は雨霰と飛んで來ます。しかし乘組員一同は悠然として船を進ませました。出發の時から死を覺悟してゐる人々です。といふのは港の入口に船を沈めて、人員だけボートで歸るといふことは天運といつてもよいくらゐでした。

いよ〳〵船は旅順港の一番狹い入口に入り、擊沈することになりました。指揮官廣瀬中佐は爆發藥に點火させました。轟然たる爆音が船艙にひゞきわたると、どん〳〵浸水して來て、船は傾きはじめたのです。

乘組員をボートに移して、人數をしらべたところ、どうしても一人足りません。誰であらうかと廣瀬中佐は考へましたが、先ほど爆發藥に點火しに下りた杉野孫七といふ上等兵曹（後に兵曹長）のことを思ひ出したのです。

日露戰史に壯烈な美談を遺した廣瀨中佐の話は誰も知らぬ者はありません。「杉野、杉野」と呼ばれたその杉野兵曹長と共に勇壯な銅像となつて東京須田町の一角に聳えてゐます。軍神と仰がれる中佐の忠魂は永久に消えません。

「さうだ、杉野がゐない。皆はこゝで待つてゐろ、俺がさがして來る。」と、叫ぶと、中佐は沈みゆく船に乗りうつつて、敵彈のふりそゝぐ中を、
「杉野！　杉野！」と呼びながら、船内を一巡しましたが、杉野の姿は見えません。
ボートに引返し、乗組員に聞いてもわかりません。或は敵彈にやられたのではないかとまたも探しに出かけましたが、どうしても見つかりません。福井丸はます／＼傾き出し、潮は甲板の上に白浪を立てゝゐます。
「よし、今度が最後だ。」と決心した廣瀬中佐は、杉野は居らぬかと、三度船内をたづねましたが、杉野兵曹はゐませんでした。
もはやこれまでと、中佐がボートに乗りうつつて沖合さして漕ぎ出したその時です。サッと敵の探海燈の光が輝き、このボートを發見してしまひました。大砲の目標が暗闇の中に浮び上つたのですからたまりません。敵の砲臺からは、猛烈な砲撃をはじめました。
突然、ヒユッと音を立てゝ飛んで來た巨彈は廣瀬中佐の頭部に當りました。折しも、今にも沈みきらうとする福井丸を見つめてゐたのです。行方の知れない部下のことを案じてゐた時でした。そして、ボートの中には、中佐の一片の肉塊だけが殘つて何もないのでした。
軍神と仰がれる廣瀬中佐と杉野兵曹長の銅像は、東京神田の須田町に建てられました。

肉彈三勇士

廟行鎭の總攻撃

昭和六年九月、わが南滿洲鐵道を支那兵が破壞したので、滿洲事變が起りました。また昭和七年一月には、上海事變が勃發し、その廟行鎭總攻撃の時に肉彈三勇士の壯烈な美談が生れたのです。

廟行鎭は上海の北約二里半のところにある部落で、上海から呉淞にまたがつてゐる敵の堅固な陣地の中ほどに位してゐます。この方面は一ケ月ほどかゝつて作られた非常に堅固な陣地で、三メートルの高さの鐵條網をはりめぐらし、その上幅四メートル、深さ二メートルの外濠もあり、陣地の前面は左右から十字砲火の射撃が出來るやうに側濠さへ

作られ、こゝには機關銃の用意がすつかり出來てゐました。何よりも、この障碍物を破壞しなければ突撃することが出來ません。

總攻撃の時間は刻々と迫つてゐます。そこで工兵の手で、これを爆破することになりました。

二月二十二日のあけがた、午前五時三十分を期して、總攻撃を加へ、廟行鎭を奪ひとることに決した下元少將の率ゐる混成旅團は二十一日に、

「鐵條網を破壞し、歩兵の突撃路を開けよ。」と命令しました。命をうけた松下中隊長はその日の午後五時、麥家宅で、部下の第一小隊長大島少尉、第二小隊長東島少尉を集めて、にわかづくりの破壞筒の準備をさせると、第一小隊は森田小隊正面の鐵條網を爆破し突撃路を三つ開くこと、第二小隊は碇小隊正面の鐵條網に突撃路五つを開くことをいひつけました。

そこで、小隊長以下の破壞隊員は、決死の覺悟もかたく、その準備にかゝりました。

破壞筒　急ごしらへの破壞筒といふのは、青竹を割つて、その中に火藥をつめた、直徑約三寸、長さ四メートルほどのものです。これを三人の兵が抱へて突進し、鐵條網の中に突込むと、導火線に火をつけて逃げかへる仕掛になつてゐます。

何しろ、敵の陣地のすぐ前です。それに總攻撃の時刻は迫るばかりです。敵の猛烈な攻撃からいつても、この破壞隊に加はるからには、もとより生きて歸らぬ決心でなければ出來ないことです。

中隊長の松下少尉は、大島少尉、東島少尉をはじめ、合計三十六名の決死隊員を集めて訓示を與へた上、麥家宅のとある丘の上で、陣中にありあはせの支那酒をすゝつて、みんなで天皇陛下の萬歳を三唱しました。雲はあつたが、陰暦十七日の月が深く中空にかゝつて、荒涼とした戰場を照らしてゐます。

壯烈三勇士　東島工兵少尉の率ゐる第二小隊の豫備第二班の第一組が、作江伊之助、江下武二、北川丞の一等兵三人だつたのです。

敵前二十メートルまで進んだ決死の一隊は、折から敵の猛射をあびて、前進することが困難となりました。しかも、時は一秒一秒と迫つていきます。「強行破壞」の命は下りました。が、第一班は突撃して鐵條網を破壞しようとしましたが、無念にも全員の殆どが倒れて目的をとげることが出來ず、全滅の悲しみにあひました。第二班の勇士は思はずも悲憤の思ひに燃え、敵陣をぐつとにらみました。

敵はなほも猛烈に機關銃や小銃を亂射しました。小隊長東島少尉は、約五メートルの間をおいて待機してゐた第二班に、

「強行破壞――前へ！」を命じました。豫備班長内田伍長は、この狀況では破壞筒を鐵條網に突込んでから點火する時間がないので、破壞據點から點火したまゝ出發するやう命じました。

昭和七年上海事變中に起つた肉彈三勇士の壯烈な話は、當時世界の人を驚かしました。これこそ軍人精神を實踐した大和魂の鑑であります。其時の姿をそのまゝに東京芝の青松寺に銅像となつて、後世永く人々に強い感激を喚び起させるでせう。
肉弾三勇士

第一組はすぐに點火出來て進みましたが、第二組はなか〱點火が出來ません。この様子を見た班長は自分で點火して前進させると、兩組の間にあつて突進しました。

やがて第一組は鐵條網までの中ほどで、先頭の北川一等兵が敵彈で足を射貫かれてばつたり倒れました。はづみをくつて江下、北川の二人もつまづきました。もはや前進出來ない様子に、班長は折角の計畫が挫けたのではないかと心配してゐると、その刹那、北川一等兵はやをら起き上り、負傷を物ともせず、導火線が燃え進んで刻一刻と爆發の時の切迫しつゝある破壞筒を抱へたまゝ、三人一體の第一組は敢然として鐵條網に驀らに進みました。そして、鐵條網に破壞筒を押し込み終つたと思つたその一瞬間、轟然たる爆音と同時に、大きな肉の塊りが火焔の中に舞ひ上りました。

鐵條網には幅十米の破壞口が見事にあいてゐました。

第二組はその爆音を聞いて後退しましたが、破壞筒を鐵條網に突込み終つて、見事に成功しました。――かくて、歩兵の突擊路は開かれ、總攻擊は開始されたのであります。

壯烈無比の肉彈三勇士――上海事變美談の一つとして、軍國日本の尊いかゞみとして、東京芝の青松寺境內に、その勇壯な姿は、銅像となつて永く人々の胸を打つことでせう。

銅像物語

昭和十六年七月二十日印刷
昭和十六年七月二十五日發行

著者　佐々木千之　東京市荒川區日暮里町九ノ一〇三五
發行人　梅林寛治　東京市小石川區東古川町一〇
印刷所　中外印刷株式會社　東京市荒川區日暮里町九ノ一〇三五
發行所　アカツキ書店　振替東京三一一三三番
發賣所　時代社　東京市牛込區早稻田鶴巻町三六一　振替東京六一六四番　電話牛込三七一三番
配給元　日本出版配給株式會社　東京市神田區淡路町二ノ九

停　定價八拾五錢